准教授　**阿部　賢一**　ABE, Kenichi

1. 略歴

1995 年 3 月　東京外国語大学外国語学部ロシヤ・東欧語学科チェコ語専攻卒業
1999 年 3 月　東京外国語大学大学院地域文化研究科博士前期課程修了
2002 年 6 月　パリ第 4 大学第 3 課程スラヴ研究科 DEA 取得
2003 年 3 月　東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程修了
2003 年 10 月　北海道大学スラブ研究センターCOE 研究員
2004 年 4 月　東京外国語大学大学院国際文化講座助手
2005 年 4 月　武蔵大学人文学部ヨーロッパ比較文化学科専任講師
2008 年 4 月　同准教授
2010 年 4 月　立教大学文学部文学科文芸・思想専修／文学研究科比較文明学専攻准教授
2016 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

中東欧文学、比較文学

b 研究課題

20 世紀プラハの文学・美術。翻訳研究。比較文学。

c 概要と自己評価

現在、主に以下のテーマに基づき、研究を進めている、

（1）20 世紀チェコ文学
（2）中東欧における文学史記述
（3）翻訳の諸問題

（1）に関しては、近年、戯曲家・政治家ヴァーツラフ・ハヴェルを中心に研究を行なっている。社会主義体制下におけるハヴェルの戯曲と政治の関係を、翻訳、論文を通して検討を行ない、その成果は単著にまとめられた。

（2）に関しては、文学理論の観点からの考察を共著で行ない、今後はさらに複数言語の文学史記述の可能性を探求する予定である。

（3）については、（2）とも関連する文学史のレベルの問題、世界文学的な文脈での問題（これについて論文「翻訳における時差――「世界文学」と「時間」」を参照）、さらには文芸翻訳の実践の３つの問題系から研究を進めており、その成果の一部は着実に論文として発表している。

d 主要業績

(1) 著書

共著、小川公代・吉村和明、『文学とアダプテーション II ヨーロッパの古典を読む』、春風社、2021.11
共著、白水社編集部 編、『「その他の外国文学」の翻訳者』、白水社、2022.2
共著、野崎歓・阿部公彦、『新訂　世界文学への招待』、放送大学教育振興所、2022.3

(2) 論文

阿部賢一、「カレル・チャペックの『ロボット』におけるロボットの言語」、『れにくさ』、12、206-221 頁、2022.3

(3) 書評

ミルチャ・カルタレスク、『ノスタルジア』、山梨日日新聞、愛媛新聞など、2022.1

(4) 学会発表

国内、阿部賢一、「わが祖国はいずこに　チェコにおけるロマ作家の作品から」、ワークショップ「《ロマ》から《ワタン（Home/land)》を考える」、京都大学、2021.3.17
国内、阿部賢一、「ヨゼフ・ユングマンの翻訳『アタラ』の社会的機能について」、2020 年度日本スラヴ学研究会研究発表会、2021.3.27
国内、阿部賢一、「ミラン・クンデラと翻訳」、日本ロシア文学会・日本スラヴ学研究会共催シンポジウム、2021.6.26
国内、阿部賢一、「ウランの記憶：ヤーヒモフの事例」、日本スラヴ学研究会・研究発表会、オンライン、2022.3.30

(5) 啓蒙

阿部賢一、「バスク語に宿された、魂の物語」、『英語教育』、2021 年 2 月号、2021.1

阿部賢一、「創造か破滅か　理性の行方…『ロボット』カレル・チャペック著」、『読売新聞』、2021 年 7 月 18 日朝刊、2021.7

(6) 会議主催(チェア他)

国際、「第 5 回ボヘミア・フォーラム」、実行委員、オンライン、2021.12.18

(7) 翻訳

共訳、アンナ・ツィマ、"Probudím se na Šibuji"、阿部賢一・須藤輝彦、『シブヤで目覚めて』、河出書房新社、2021.4

個人訳、ヘレナ・チャプコヴァー、"Architekt Bedřich Feuerstein–Cesta do nejvýtvarnější země světa "、阿部賢一、『ベドジフ・フォイエルシュタインと日本』、成文社、2021.6

共訳、ヴァーツラフ・ハヴェル、"Vyrozumění, Audience"、阿部賢一・豊島美波、『通達・謁見』、松籟社、2022.3

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

セミナー、NHK 文化センター、「カレル・チャペックを読む」、2021.4～2021.7

セミナー、日本チェコ友好協会、「ボフミル・フラバルの辿った道」、2021.11～

セミナー、日本チェコ友好協会、「ヴァーツラフ・ハヴェルの戯曲世界」、2022.2～